

グループ一丸で新たな挑戦の年に

達生堂グループは1月4日、2025年の仕事始めで通常業務がスタートしました。4日には、グループ職員が一堂に集まり、新春を祝うとともに、新年のあいさつを行いました。

昨年は、12月26日に恒例のもちつき大会を行いました。多田正毅会長も杵を振るって職員と交代でもちをつき、女性職員たちがお供えもちやあんこもち、きなこもちなどにしました。院内託児所の子供たちも集まり、もちつきを興味深そうに眺めていました。12月28日に年末あいさつで2024年を締めくくりました。

2025年の年初あいさつで、白石裕比湖理事長は、昨年が一番大きな出来事に電子カルテ導入を挙げ、「働きやすい職場にしたい。安心安全の医療・福祉を目指して、この一年乗り切りたい」、藤田善幸病院長は「年末年始はかつてない数の患者さんが病院に来られ、病院一丸となって対処することができた。2025年問題（団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる）をはじめ、いろんな波が来ます。病院の立ち位置を考え、病院としていろいろな特色を出していきたい」と抱負を述べました。

2025年1月6日

最も重要な決定とは
何をするかではなく
何をしたいかを
決めること
とにかく考えること
工夫をしてみることに
そしてやってみること

